

帰宅困難者に施設を開放 築地別院に250人の会社員ら宿泊

東日本大震災の発生（写真）。夜で首都圏の交通機関が間に私鉄やストップした3月11日、東京都中央区の築地別院（不二川公勝輪J Rは不番）は、帰宅できない人たちのために第2伝道会館を避難所として開放した。

地震発生直後から別院は参拝者の安全を確保、災害時の地域の一時避難所であることから、近隣の会社員や築地市場関係者など、余震が続き不安を抱える人たちの受け入れを始めた。同別院は、本堂などのガラス230枚が破損したが、ケガ人などの被害はなかった。

交通機関のまひが長引いたため、礼拝施設の開放を決め、1階ロビーにイス、テレビを設置し情報を提供、2階にロールカーペットを敷いて仮眠所とした

（写真）。夜で間に私鉄や地下鉄は開通したが、JRは不通。ネット上のツイッターに別院職員が避難所開放のことを投稿したことで多くの人が詰めかけ、帰宅できない人など600人以上が利用し、約250人が一夜を過ごした。翌朝10時まで施設を開放し、携帯の充電し出しやおにぎり、温かいスープなどを振る舞った。

こつした同別院の迅速な対応は、地元消防関係者からも高い評価を受けたという。別院職員は「多くの皆さまのおかげに立ててよかった。今後は現地緊急災害対策本部として東北教区と連携を図り、災害復興に努めたい」と話していた。

なお、東京教区事務所（築地別院内）には現地災害対策本部が置かれ、中央本部副部長として山内教嶺・本願寺宗務首都圏センター所長が現地本部の指揮を担当する。

